

## 7 黒い目の紳士

### I

まだまだ歩いて行かねばならず クリマクロック・レーンの小道で  
いちんち  
一日仕事の落ち穂の束を降ろし わたしは靴下留めを結びなおす  
そこへ優しげな黒い目の紳士が通りかかり こう言った  
わたしの<sup>からだ</sup>身体を バラ色に染める甘い声

「おやおや これは 5

なんと可愛い膝小僧ちゃん」

あの人は近づいて 靴下留めを結んでくれた

### II

陽が沈み 月が出るまでのことだった  
ああ 二度と手に出来ぬものを失う<sup>たやす</sup>容易さ  
あの優しげな行きずりの人の 家も名前も知らぬまま 10  
でも その人の本性とその結末はすぐに分かった  
わたしは激しく  
泣きじゃくった

あの人が 靴下留めを結んでくれさえしなければ

### III

いま わたしの<sup>そば</sup>傍には 可愛い元気な男の子 15  
あの<sup>こと</sup>過失は世間も忘れかけ もう悲しくはない  
わたしの一番の喜びはこの子 仲間で友だち  
わたしをしっかりと守り 頼りにしているわ  
この子のことでは泣かないし  
いまでは感謝しているわ 20  
この子のパパが 靴下留めを結んでくれたのを